



地域教育セミナー

（令和8年8月20日（木）：いちのみや桃の里ふれあい文化館）

AI時代を生きる子どもたちに必要な学びと大人の支え

株式会社みずほフィナンシャルグループ 執行役常務
グループCCuO 兼グループCBO 秋田 夏実 先生

講演のポイント

- ① AIの進化によって、知識を覚えることや情報を探すことの価値は相対的に低下しつつある。一方で、人間には「問いを立てる力」「意味を考える力」「相手を理解する力」「対話する力」がこれまで以上に求められている。
- ② 未来は予測できなくても「学び続ける力」があれば新しい環境に適應できる。重要なのは今何を知っているかではなく、「これから何を学べるか」である。
- ③ AI時代に子どもたちが身につけたい力として、次の4つが挙げられる。
Learning Agility（学び続ける力）、Metacognition（自分を客観的に見つめる力）、In Her Shoes（相手の立場や景色を理解する力）、Communication（対話し、共に考える力）
- ④ 大切なのは、失敗を恐れず挑戦し、振り返りながら再挑戦する姿勢である。変化の大きい時代だからこそ、「まだできない」を「学んでいる途中」と捉える成長志向が重要である。
- ⑤ 子どもを理解するためには「相手の景色を見る」ことが欠かせない。親と子どもでは見えている世界が異なり、どちらが正しい・間違いということではない。相手の立場を理解したうえで対話することが大切である。
- ⑥ 家庭では、「何点だった？」ではなく「何が面白かった？」「失敗しなかった？」ではなく「何に挑戦した？」などと問いかけることで、結果ではなく学びや挑戦に目を向けられるようになる。AIが答えを示してくれる時代だからこそ、「なぜ？」「本当に？」「あなたはと思う？」という問いを育てることが重要である。



まとめ

大人自身が学び、挑戦し、失敗から学ぶ姿を見せることが、子どもたちへの最高の教育である。大人の役割は、答えを教える人から、問いかけながら伴走する人へと変わっている。未来を正確に予測することはできない。しかし、どんな時代にも通用する“未来を生きる力”を育てることはできる。そのために、子どもだけでなく大人も学び続けることが必要であり、「Learning is a lifetime journey（学びは一生の旅）」という姿勢こそが、次世代への最高の贈り物である。

峡東教育事務所よりお知らせ

11月12日（木）に山梨市民会館において、人権のための講演会を予定しております。
講師は、山梨県立大学准教授 山中達也先生です。
詳細は決まり次第、峡東教育事務所のホームページに掲載します。



世界農業遺産学習 【甲州市立祝小学校】

地域の優れた点を学ぶ

祝小学校で6月12日（金）に、4年生から6年生の児童を対象に世界農業遺産学習が行われました。講師として、峡東地域世界農業遺産アドバイザーの中村正樹さんをお迎えして、峡東地域の農業の素晴らしさや、なぜこの地域が世界農業遺産に認定されているかなどの講義を受けました。

世界農業遺産とは

世界農業遺産（GIAHS）とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域（農林水産業システム）であり、国際連食糧農業機関（FAO）により認定されます。日本では17地域が認定されており、峡東地域は令和4年7月に認定を受けました。



講師からの熱心な指導



積極的に発言



説明をパソコンにまとめる

地域に残したいもの

峡東地域の農業の特徴としてあげられる、小さな家族農業で高品質な果物を生産するという説明の中では、他国のぶどう栽培や価格との比較が行われ、この地域で生産されている果物の価値の高さに驚く児童が多数いました。また、「この地域に残ってほしいものは」の問いかけに対して、児童からはぶどうやワインなどの答えがあげられました。この地域の中に農業や生産された果物を利用した産業が根付いていることがうかがえました。この地域に誇りを持ってもらいたいと思います。

サントリー「水育」出張授業 【山梨市立岩手小学校】

水と私たちのつながりを学ぶ

岩手小学校で6月23日（火）に4年生の児童6名を対象に、サントリー水育の出張授業が行われました。授業では、日頃何気なく使っている「水」について考える機会を通して、水は人間にとってとても大切なものであり、未来にも引き継いでいかなければならないものであることを学びました。



土の違いを観察

事前授業の様子

本日の授業の前に、担任の古屋先生による事前授業が行われました。この授業では、私たちの生活と水がどのようなつながりがあるかの学習や、すごろくを用いて、水がどのような場所を循環するか（水循環）について学びました。児童たちはすごろくの数字によって、同じ場所を繰り返し水が通っていることや、様々な場所を水が行き来していることに気づき驚いていました。



すごろくを楽しむ児童

森の重要性について

講師の先生からは、きれいな水を守るために大切なことは森を守ることであり、そのためには森を人間がしっかりと管理をすることが必要であると説明がありました。森に手を入れないと、土の性質が変化をしてしまい、水を蓄えることができなくなってしまいます。今回の授業では、2種類の性質の異なる土を用いて実験を行いました。児童たちは実験の結果を目の当たりにして森を守る重要性を感じたようです。今回の授業で学んだことを生かして、水を未来に引きつぐために小さな行動でもいいので取り組みをしてもらいたいです。



実験から土の違いを知る

がん教育出前授業 【笛吹市立春日居中学校】

がんについて考える

春日居中学校で6月19日（金）に、3年生の生徒64名を対象に、山梨県厚生農業協同組合連合会による、がん教育出前授業が行われました。様々な病気がある中で、がんによる死者数は第1位であり私たちにとって身近な病気になってしまいました。今回の授業では、主にがん予防と早期発見について学びました。

がん予防について

がん予防に最も必要なことは生活習慣の改善です。食生活の見直しでは、エネルギーの取り過ぎや塩分の取り過ぎをしないことや、野菜をたくさん食べることが大切であると説明がありました。理想的な野菜を食べる量の多さに、驚きを隠せない生徒が見られました。また、睡眠をしっかりとることで免疫力が高まることについても話があり、生徒はテスト期間中ということもあり睡眠が少なく、今日は早めに寝るとつぶやいている生徒もいました。他にも喫煙をしないことや身体を動かすことも大切であると説明がありました。



意見を発表する

がん検診について

残念ながら予防をしても、がんになってしまうことがあります。そこで大事になるのは、がん検診を受けることだそうです。がんは早期に発見し治療を行うことで、死亡率を減らすことが可能とのことです。山梨県では、がん検診の受診率の目標を60%に設定をして様々な広報活動を行っています。今回の授業を通して、がん予防に興味を持ち、大切な人にもがん検診の重要性を広めてもらえるとうれしいです。



講師の先生から丁寧な説明



自分の生活を振り返る

林ツインズお祝いコンサート 【山梨市立笛川学園】

林ツインズとの関係

7月16日（木）山梨市はなかげホールにおいて、笛川学園の全校児童生徒を対象に、旧牧丘町出身・笛川中学校卒業の林ツインズによる、お祝いコンサートが行われました。林ツインズは山梨市観光大使を務め、2016年には笛川小学校の校歌の作成に携わるなど、とてもゆかりのある方です。今回は4月に開校した、義務教育学校笛川学園のためにコンサートを行ってくれました。

盛り上がる児童生徒

コンサートが始まると子どもたちは、はじめから盛り上がりを見せました。林ツインズが制作した、自分たちの誕生を曲にしたものや巨峰マラソンのテーマソングをはじめとして、他のアーティストのカバーソングなどを披露しました。子どもたちと笛川中学校・小学校の校歌をコラボレーションする場面では、ホールは大きな歌声に包まれました。



帰るときにはハイタッチ

義務教育学校での変化

コンサートの中盤のトークの中で林ツインズから、「義務教育学校になって変わったことはありますか」と質問がありました。指名された生徒は緊張しながら「笛川フェスタを通じて交流が増えた」と答えていました。昨年までは別々の学校として交流する機会ありましたが、今年からは同じ学校の児童生徒となったことで一体感が生まれてきているのではないのでしょうか。9年間同じ学び舎で過ごすことで育まれるメリットを生かして今後の学校生活を送ってもらいたいです。



会場を盛り上げる林ツインズ



質問に答える生徒

被爆体験伝承者講演会 【笛吹市立御坂東小学校】

戦争について考える

御坂東小学校で7月6日（月）に、くにたち原爆・東京大空襲体験伝承者の天野さんによる、被爆体験伝承者講演会が行われました。今回の講演会では、広島原子力爆弾について、実際に現場にいた平田さんから聞いたお話を元に天野さんが講演を行いました。

原爆の威力

原子力爆弾の威力はすさまじく、熱線・爆風・放射線が人々を襲いました。瓦の溶ける温度は1500度とされていますが、原爆瓦を見ると高熱にさらされた部分はブツブツになっており、1500度を超える温度になっていたことが分かりました。児童たちも実物を触りながら温度の高さに驚いていました。また、爆風の影響の大きく、木造家屋はほとんどが倒壊し、鉄筋コンクリート造の建物も、崩壊を免れた場合でも、窓は全部吹き飛ばされ、内部はことごとく焼失するなどの大きな被害が生じたそうです。人々も吹き飛ばされ、即死した人、負傷した人、倒壊した建物の下敷きになって圧死した人が数多くいたそうです。



真剣な眼差し

甲府でも空襲

今回の講演会を行った7月6日は、81年前に甲府空襲があった日です。アメリカ軍B-29爆撃機による攻撃により、甲府市内は火の海となり、負傷者は1239名、被害戸数18094戸、死者は1127名と大きな被害となったそうです。身近な街でも戦争の被害があったことが紹介され、児童たちは戦争の悲惨さを感じたようです。講師の先生からも、「やっていい戦争はない」とお話があり、児童たちは考え深げにしている様子がありました。今回の講演で学んだことをいかして、戦争のない世の中になるために何が必要かを考えてもらいたいです。



講師から熱心な説明



原爆瓦を触る

甲州弁むかしがたりの会 【山梨むかしがたりの会】

寺子屋で学ぶ

8月2日（日）に休息山立正寺において、県内で甲州弁の民話を語る活動をしている山梨むかしがたりの会による、甲州弁むかしがたりの会が行われました。休息山立正寺では7月31日（金）から8月2日（日）の3日間、地域の小学生約60名が参加して、立正寺夏休み寺子屋が開催されていて、むかしがたりの会には寺子屋参加者のうち小学校5年生から6年生の13名が参加しました。寺子屋の指導には、地域の中学生や高校生、退職した教職員などが参加して小学生の面倒をみていました。

甲州弁を感じる

今回は5名の語り手の方々から、地元の甲州市勝沼町上岩崎の伝説や北杜市の伝説などを語っていただきました。児童たちは初め、甲州弁が理解できずに、ぼかーんとしている様子もありましたが、語り手の方々はその様子を見て解説を入れながら話をしてくれました。解説のおかげで、甲州弁の理解度は後半にいくにつれて高まりました。甲州弁は県外の方々からは口調が荒く、きつい方言だと認識されているようです。これは、標準語よりも語尾に力が入って聞こえるものが多いからだそうです。児童たちには甲州人の誇りとして、甲州弁を受け継いでいてもらいたいです。



お寺の本堂で学習



甲州弁で昔話を語る



わらべ唄に合わせて手を動かす

わらべ唄に夢中

会の中盤には気分転換もかねて、わらべ唄のコーナーがありました。わらべ唄とは、子どもが遊びながら歌う、昔から伝えられて、歌い継がれてきた歌だそうです。児童たちは、わらべ唄に合わせて手を動かし、うまくいくとかなるよと見本を見せてもらいました。実際にやってみるとなかなか難しく、うまくいかない児童もいました。何回か練習をすると成功する人数は増えていきました。昔ながらのあそびも楽しいものですね。

釈迦堂遺跡博物館見学 【甲州市立菱山小学校】

地域の歴史を学ぶ

7月17日（金）に菱山小学校の5・6年生 17名の児童が、釈迦堂遺跡博物館を訪れました。釈迦堂遺跡博物館学芸員の林さんから、前半は館内に展示してある土器や土偶などの説明を受けました。後半は林さんの指導を受けながら、土偶作りを行いました。

縄文時代を感じ取る

林さんから土偶や土器を見ながら、様々な説明がありました。土偶の説明では、釈迦堂遺跡で出土した土偶の量は全国2位であると説明されると、児童たちからは驚いた表情や様々な反応が見られました。「土偶は男性か女性か」と質問をされると多くの児童は男性と答えていましたが、実際は女性であることを説明されました。出産にはリスクを伴うため、お祈りのために土偶は作られることが多かったそうです。土器の説明では、昔は主食としてどんぐりなどを食べていたため、どんぐりなどのアクを取るために土器が使用されていたそうです。現在で言う、鍋の役割ですね。縄文土器の縄文は縄でつけた模様から来ていることが説明されると、縄のような飾りがついているものだと思っていた児童が多かったようです。



数多くの発掘品



土器のでこぼこを感じる



説明を聞きながら作業に集中

土偶作りに集中

土偶の製作では、すぐに固まってしまう土に苦戦をする様子がありました。水分が蒸発すると土が固まってしまう。児童たちは手や土に水をつけながら作業を行い、作品の完成を目指しました。部品を結合する場面では、大きさがうまく合わずにやり直しをする様子も見られました。苦労も多かったですが、作品が完成すると子どもたちは笑顔になりました。今回の体験を通して、ものづくりの大変さや魅力を感じることができたのではないのでしょうか。

情報モラル教室 【山梨市立山梨北中学校】

情報モラルを学ぶ

山梨北中学校で7月15日（水）に、全校生徒を対象に情報モラル教室が行われました。講師として、山梨県警察本部人身安全・少年課少年サポートセンターの深沢ゆり香さんをお迎えして、携帯・スマホ等によるトラブルを防止するためには、どのようなことを注意すればよいかななどの講義を受けました。この日は熱中症警戒アラートが出ていることもあり、各教室で講義をきくりモート式で講義を行いました。



講師からの具体的な説明



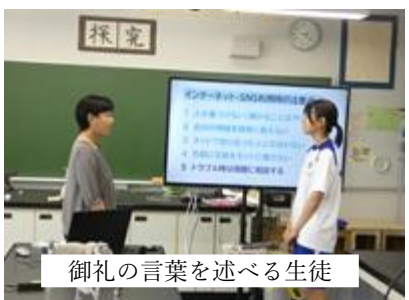
画面に集中する生徒

ネットの世界とは

講師の先生から、ネットの世界と現実社会は同じであるというお話がありました。例えば、ネットに個人情報や顔写真を掲載することは、現実社会では個人情報を言い歩いたり、個人写真を見知らぬ人に配ることと同じで、とても危険なことだそうです。また、ネットに人の悪口を書き込むことは、現実社会では大声で人の悪口を言いふらすことと同じであり、普通はこんなことはしませんよね。このように現実社会とネットの世界を連動して考えることができるとトラブルになりにくいそうです。

SNSの危険性

SNSは情報を早く・広く発信できる反面、見知らぬ人に無断で転載されたり、個人情報特定される危険性があるそうです。匿名だからという、安易な考えで投稿したものが自分や友人を危険な目に遭わせることになるかもしれません。自分が投稿したものを削除しても、他の人が情報を持ち続ける危険があり（デジタルタトゥー）、将来に大きな影響がでることもあるそうです。最近では闇バイトが社会問題となっています。SNSが勧誘に利用されるという情報もあるため注意が必要だそうです。今回の授業を通して、SNSやインターネットを利用する際は、相手の気持ちを考えて情報を発信することを身につけてもらいたいと思います。



御礼の言葉を述べる生徒

すてっぴ・あっぷる活動紹介 【NPO法人すてっぴ・あっぷる】

すてっぴ・あっぷるとは

NPO法人すてっぴ・あっぷるは、甲州市を拠点に子育て支援活動を行っている団体です。「子育て・親育ち」をキーワードに、子育て中の親子や将来親になる人たち、地域で子育てに関わっている人たちが、みんないっしょに自信をもって楽しく子育てできるような環境作りを応援するために様々なイベント等を開催しています。詳しくはホームページを確認ください。

金融教育を学ぶ

8月4日(火) 甲州市役所勝沼支所において、夏休み小学生企画として、「店長になろう！おみせやさんごっこで学ぶ金融教育」が行われました。キッズマネースクールから2名の講師の先生方をお迎えして講義が行われました。講義の始めには、良いおみせやさんに必要なことについての講義が行われ、あいさつの重要性や細かな気配り・気遣いの大切さを学びました。その後、児童たちは学んだことを生かして店長となり商品の準備や手持ちのお金の確認などを行いました。商品の準備では、色塗りをていねいに行ったり、友達に好きな色を聞いたりしながら、少しでも早く商品が売れるように工夫をしている様子がありました。児童たちは自分たちが作った商品が売れるたびに喜びを感じているようでした。また同時に、お金を稼ぐことの大変さも感じているようでした。

星空を感じる

7月18日(土) 甲州市民文化会館において、甘草屋敷子ども図書館読み聞かせボランティア「絵本くらぶ」主催の「みんなでいっしょに星を見よう！」が行われました。すてっぴ・あっぷるは協力団体として運営に参加をしました。星つむぎの村の共同代表の高橋真理子さんがコーディネーターを務め、星空を眺めながらのコンサートや各種星座を解説してくれました。会場には障害を抱え、普段外で星空を眺めることが難しい子どもたちも参加していて、貴重な体験となったようです。



こだわって商品を作製



商品を販売



みんなで星空を眺める

俳句出前授業 【笛吹市立石和北小学校】

俳句について学ぶ

石和北小学校で7月7日(火)・8日(水)に、3年生～6年生の児童を対象に、笛吹市内で俳句を学ばれている、長田さんと上野さんを講師にお迎えして、俳句出前授業が行われました。今回の授業では、俳句の基本的な技法などを学び実際に俳句を作りました。

俳句のいろは

俳句とは、自分のまわりの虫、花、やさい、鳥、木、山、川、草、そのほかのできごと、家族のことなどについて、見たこと、聞いたこと、感じたことを、いつの季節か分かる言葉(季語)を1つ入れて、音数を5・7・5で組み立てて書いたものだそうです。音数の数え方にも特徴があり、文字数と音数が異なることが説明されると多くの児童はすでに知識が身につけているようでした。用法の説明では擬人法やオノマトペが紹介されました。児童たちは、言葉は聞いたことがあるようでしたが、意味を再確認することができたようです。

俳句を作ってみる

今回の授業では、「青ぶどう」「夏休み」の季語を用いて、俳句を作りました。青ぶどうは、講師の先生方がシャインマスカットの実物を持参してくださり、児童たちは実物に触れながら俳句を考えることができました。青ぶどうのため、食べることができずに残念がっている児童もいました。限られた時間でしたが一生懸命に考え、作品を発表していました。先生方からは、学んだばかりの技法を使った作品やユーモアあふれる作品が多く、とても素晴らしい作品が多かったと高評価でした。今回の授業を通して言葉の重要性を感じ、今後の学習活動にもつなげてもらえるといいですね。



講師の先生から丁寧な説明



作品を発表する